

経済学部
ゼミナール履修者
募集要項
〈2024年度〉

中京大学経済学部

内容

1.ゼミナールとは.....	2
2.履修者選抜制度の概要.....	2
3.募集ゼミナール	3
4.ゼミナール履修者選抜のスケジュール	3
5.ゼミナール履修者募集の HP とゼミナール履修選抜システム.....	4
5.1 ゼミナール履修選抜システム	6
6.エントリーの方法.....	6
6.1 説明会	6
6.2 エントリーシート	6
6.2.1 エントリーシートの内容	7
6.2.2 エントリーシートの書き方	7
6.2.3 エントリーシートの提出.....	7
6.2.4 エントリーシートの提出・確認方法について	7
7.審査.....	8
7.1 個別審査に関する連絡方法.....	8
7.2 面接について	8
8.履修ゼミナールの確定	8
9.ゼミナール非確定者について	9
10.ゼミナール紹介	9

1.ゼミナールとは

経済学部におけるゼミナールとは 2 年の秋学期から 4 年の秋学期までの 2 年半の期間に開講される少人数制の演習科目の総称のことです。授業科目には演習Ⅰ(2 年秋学期)、演習Ⅱ(3 年通年)、演習Ⅲ(4 年通年)が含まれます。履修の制約として、同一の担当教員の開講する演習科目(演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ)を順番に履修し、単位を修得する必要があるため注意してください。ゼミナールでの授業内容は教員によってさまざまです。また、ゼミナールの受講希望状況に応じて内容や選抜方法を変更するゼミナールもあります。個別のゼミナールの内容や選抜の条件をよく確認してください。

2.履修者選抜制度の概要

中京大学経済学部のゼミナールの履修者選抜の方法はマッチングメカニズムを応用しており、以下の条件で実施されます。

- A) 学生はエントリーシートに必要な事項を記入し、履修を希望するゼミナールにエントリー(履修申請)する。
- B) 学生は複数のゼミナールにエントリーでき、それらの希望順位を決定する。
- C) ゼミナールの募集人数は教育内容や方法に応じて担当教員によって設定されており、事前に公表される。
- D) ゼミナールの担当教員はエントリーした学生を事前に提示した方法と基準に従って審査し、評価順位を決定する。
- E) 履修者選抜システムが、学生が設定した希望順位と担当教員が決めた評価順位に基づいて各ゼミの履修者を確定する。
- F) 選抜はシステムが決められたルールに基づいて行うため、各学生の希望順位は担当教員に開示されない。また、各教員の評価順位も学生には開示されない。

注意事項

複数のゼミナールにエントリーする場合は、ゼミナールごとにエントリーシートを提出する必要があります。また、ゼミナールにエントリーしたとしても教員の評価や他の学生の応募状況によってゼミナールを履修できない場合があります。

ゼミにエントリーすることができる学生は、原則 2 年生となります。3 年生以上のゼミの未所属者でゼミに入りたい学生は教務センターまで個別に申し出てください。

3. 募集ゼミナール

履修者を募集していないゼミナールがあることもあります。募集状況については、本冊子の後半(11p以降)の個別のゼミナール募集要項で確認してください。また、各ゼミナールの紹介を MaNaBo の「2024 年度ゼミナール履修選抜」のクラスで行っています(ゼミナールの紹介は担当教員に任されているため、紹介していないゼミナールもあります)。

4. ゼミナール履修者選抜のスケジュール

選抜期間

エントリーシート提出期間	~5月31日(金) 16時40分
審査期間	~6月19日(水)
履修ゼミナール確定日(予定)	6月21日(金)

5.ゼミナール履修者募集の HP とゼミナール履修選抜システム

2024 年度のゼミナール履修者の募集は、以下の HP で公開しています。

<http://www.econo.chukyo-u.ac.jp/lecture/summary.php>

また以下の方法でもアクセスできます。

- (1) 経済学部 HP (<http://www.econo.chukyo-u.ac.jp/>) を開く。
- (2) メニューの『2024 年度ゼミナール履修者募集』をクリックする。
- (3) 『ゼミナール履修者の募集について』、『2024 年度募集日程』、『エントリーシート』の各項目を確認する。

The screenshot shows the homepage of the Chukyo University School of Economics. The header includes the university logo and navigation links such as '教員専用ページ', '中京大学ホーム', '学生向け情報', 'お問合せ', 'ニュース一覧', 'English', and 'サイトマップ'. Below the header is a main navigation bar with categories like '学部紹介', '教員一覧', '学術情報', '講義・ゼミナール', '入試・就職情報', '大学院経済学研究科 経済学専攻', and '経済研究所'. The main content area features a large banner image of the building and a navigation menu with buttons for '受験生', '在学生', '卒業生', '一般・企業の方', 'カリキュラム', '2024 年度ゼミナール履修者募集' (highlighted with a red dashed box), 'EXP', '学術情報', and '入試情報'. Below the menu, there are sections for '経済学部' (with a '一覧' button) and 'お知らせ' (news). The 'お知らせ' section contains several news items with dates and titles. A '30th Anniversary' banner is also visible, along with a '2024 年度ゼミナール履修者募集' button (highlighted with a red dashed box) and a '中京大学 Web オープンキャンパス2021 7.17 OPEN' banner.

図1 経済学部の HP 及びゼミナール募集のリンク

講義・ゼミナール

講義・ゼミナール

- ・ 新刊論文発表
- ・ 新刊論文一覽
- ・ 雑誌論文公開講座
- ゼミナール発表・発表
- ・ ゼミナール一覽

1. 発表論文

- ・ 入部説明
- ・ 入学試験
- ・ 入学ガイダンス

2. 研究紹介

- ・ 卒業研究発表
- ・ 修士研究発表における2つの発表
- ・ 発表の特色
- ・ 英語論文の書き方（A4用紙）
- ・ 中央大学図書館（A4用紙）

3. 発表一覽

4. 新刊・雑誌論文

- ・ 新刊論文一覽
- ・ 雑誌論文公開講座
- ゼミナール発表・発表
- ・ ゼミナール一覽

5. 研究紹介

- ・ 入学説明
- ・ 入学試験
- ・ 入学ガイダンス

ゼミナールとは

経済学部におけるゼミナールとは2年の秋学期から4年の秋学期までの2年半の長期にわたる少人数制の演習科目の総称のことです。

2年
(秋学期)

10月1日

3年
(通年)

12月1日

4年
(通年)

12月1日

ゼミナールの修業について

2年全学期のゼミナールを履修し、3・4年全学期でゼミナールを履修したい方は申請書にて申し出てください。ゼミナールを履修する場合は履修登録と履修登録料をよこせなくてはなりません。

➡ 2013年度ゼミナール履修要項

➡ 2013年度ゼミナール履修要項からシステム履修要項

2022年度履修日程

合同履修会	2022年4月29日 18:30～
※ゼミナールを履修する学生は必ず参加してください。	
ゼミ生発表会	2022年4月30日 16:40～
1次発表	2022年5月1日～
	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・ 2024年～2028年履修期間 2022年5月1日～5月10日 <li style="width: 50%;">・ 卒業時期 2022年5月7日 <li style="width: 50%;">・ 所属ゼミナール申請期間 2022年5月14日
2次発表	2022年5月24日～
	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・ 2024年～2028年履修期間 2022年5月24日～6月26日 <li style="width: 50%;">・ 卒業時期 2022年7月26日 <li style="width: 50%;">・ 所属ゼミナール申請期間 2022年7月12日

10月1日発表

日時	4月29日(土)15:30-17:00
場所	専大431教室
参加費	420円
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ① ゼミナール履修希望者(経済学部の専大431) ② ゼミナール履修希望者(経済学部の専大431) ③ 参加ゼミナール申込
発表時間	1. 10:00～11:00
	2. 11:00～12:00
	3. 12:00～13:00
	4. 13:00～14:00
	5. 14:00～15:00
	6. 15:00～16:00
	7. 16:00～17:00
	8. 17:00～18:00
	9. 18:00～19:00
	10. 19:00～20:00
	11. 20:00～21:00
	12. 21:00～22:00
	13. 22:00～23:00
	14. 23:00～00:00
	15. 00:00～01:00
	16. 01:00～02:00

※履修要項についてはA4用紙で履修しますのでご確認ください。

エドリーフット

ゼミナールを履修する学生は下記のフォームを履修希望した日までに履修してください。

➡ 2013年度エドリーフット・EFLフォーム①
(1次発表、2次発表のみ)

ゼミナール履修登録システム

ゼミナールを履修する学生は以下からゼミナール履修登録システムにログインしてください。毎年4～5月の履修の申込と対応となります。

➡ 1次発表

➡ 2次発表

▲ ページTOPへ

図2 ゼミナール履修選抜制度の確認事項

5.1 ゼミナール履修選抜システム(4月上旬頃稼働予定)

ゼミナールへのエントリー及び、それらの希望順位の設定についてはゼミナール履修選抜システムを利用して行います。

上記の HP(<http://www.econo.chukyo-u.ac.jp/lecture/summary.php>)にアクセスしてください。本システムは4月上旬頃に稼働開始する予定です。なお、その際に本システムの操作方法マニュアルを HP 上にて公開します。

6.エントリーの方法

エントリーとは履修を希望するゼミナールに対して志望書(エントリーシート)を提出することです。複数のゼミナールにエントリーできますが、最終的に履修できるゼミナールは1つに限られます。ただし、他の学生のエントリー状況や審査結果によっては、ゼミナールを履修できないケースもありますので、選抜にベストを尽くしましょう。

過去の選抜では5つ以上のゼミナールに応募すれば、どこかのゼミナールには所属できる傾向が観察されています。個別ゼミナールの募集要項や説明会などで得た情報を活かし、ゼミナールの内容や特徴をよく理解した上で、十分な数のエントリーをするようにしてください。

先述したように、エントリーは経済学部の HP からゼミ履修選抜システムで行います。その際には、ゼミナールの履修の希望順位も合わせて設定します。

例年、締め切り間際でエントリーに失敗し、ゼミナールを履修できない学生がいます。エントリーは余裕を持って提出期限の前日までに完了しましょう。

6.1 説明会

ゼミナールによっては個別に説明会を開く場合もありますので、ゼミナール紹介の「3.説明会・質問の対応について」をよく読んで、担当教員の指示に従ってください。また、説明会の場ではなく個別に質問等を行う場合も、各ゼミナール紹介の「3.説明会・質問の対応について」に書かれたルールを守りましょう。

6.2 エントリーシート

エントリーシートは履修を希望するゼミナールの履修者選抜に参加するために提出する書類のことです。経済学部のゼミナール履修者選抜制度では複数のゼミナールにエントリーすることが可能です。複数のゼミナールにエントリーする場合にはそれぞれのゼミナールにエントリーシートを提出します(6つのゼミナールにエントリーする場合には異なったエントリーシートをそれぞれのゼミナールに1通ずつ計6通提出します)。エントリーシートはゼミナール担当教員が審査をする際に重要な資料となるものです。慎重に内容を検討して提出してください。

6.2.1 エントリーシートの内容

エントリーシートの内容は以下のようになっています。

- **志望ゼミナール**
志望するゼミナール名を書いてください。
- **学籍番号/氏名**
- **志望動機**
そのゼミナールを志望した理由を記入してください。
- **自己 PR**
自己 PR を記入してください。
- **これまでに特に力を注いだ科目**
勉強面で特に力を注いだことを記入してください。
- **上記以外に力を注いでいること**
上記以外で力を注いでいることを記入してください。
- **ゼミナール指定欄**
この指定欄はゼミナールごとに書く内容が違います。志望するゼミナール紹介の「4. エントリーシートゼミナール指定欄」で指定された内容を記入してください。例年、異なる教員向けのゼミナール指定欄に同じ内容をゼミナール指定欄にコピー・ペーストしている学生が散見されます。エントリーシートの作成は慎重に実行してください。

6.2.2 エントリーシートの書き方

エントリーシートはマイクロソフト社の WORD 形式の電子ファイル(ファイル形式 docx)としてゼミナール募集 HP 上で配布しています。記入する際には印刷したものに手書きをせず、直接コンピューターを利用して電子ファイルとして記入してください。なお、教員によっては、電子ファイルの提出に加えて、別途、追加的な指示があるかもしれません。その場合には、その教員の指示に従ってください。

6.2.3 エントリーシートの提出

エントリーシートは中京大学経済学部の HP から履修者選抜システムを利用して提出してください。提出する書類は、マイクロソフト社の WORD などで、PDF 形式の電子ファイル(ファイル形式 pdf)で保存して提出してください。また、教務センターや教員に直接ファイルもしくは印刷したエントリーシートを提出することは認めていません。

エントリーシートの提出は 5/31(金)の 16 時 40 分までです。この締め切りを過ぎるとエントリーシートの提出を受け付けませんので気をつけてください。

6.2.4 エントリーシートの提出・確認方法について

エントリーシートは中京大学経済学部のゼミナール履修選抜システムから提出します。

エントリーシートの提出状況についても、ゼミナール履修選抜システムから確認できます。詳細についてはゼミナール履修選抜システムのマニュアルをよく読んでください。

7. 審査

ゼミナール履修者選抜システムでエントリーシートを提出すると審査期間にゼミナールの担当教員によって審査が行われます。教員によってはエントリーシートによる書類審査だけでなく、面接・筆記等の個別審査を課す場合があります。

7.1 個別審査に関する連絡方法

- (1)ゼミナールの担当教員はゼミナール履修者選抜システムの面接予約の機能を利用
- (2)ALBO もしくは電子メール(「学籍番号」@m.chukyo-u.ac.jp)にて個別に連絡
- (3)MaNaBo のメール機能で個別に連絡

個別審査を課す場合には、上記の 3 つの連絡方法が利用される可能性がありますので、審査期間中はゼミナール履修者選抜システム、ALBO・MaNaBo および電子メールを定期的に確認してください。

7.2 面接について

面接を行うゼミナールの多くは、ゼミナール履修選抜システムの機能である「面接予約」を利用します。ゼミナール履修選抜システムのマニュアルを読み必要な手続きを確認してください。

8. 履修ゼミナールの確定

ゼミナールの担当教員はエントリーした学生を審査し、ゼミナール履修選抜システムに評価順位を提出します。ゼミナール履修選抜システムでは、担当教員によって公表されている募集人数、学生がエントリー時に設定した履修の希望順位、エントリーした学生に対する担当教員による評価順位をもとに各ゼミナールの履修者を確定します。以下にその具体的な手順を説明しておくので参考にしてください。

ゼミナール履修選抜システムでは、担当教員から選抜前に公表されているゼミナールの募集人数内の評価順位に入っている学生に対して履修ゼミナールを確定します。ただし、複数のゼミナールで募集人数内に入っている学生については、学生が設定した希望順位の高いゼミナールに確定されます。確定した学生は各ゼミナールの評価順位から削除され、評価順位の繰り上げが行われます。この手順を、各ゼミナールについて募集人数が満たされるか、エントリーした学生が全て確定するか、のどちらかの状態になるまで、繰り返し行います。

ゼミナールの履修確定状況については選抜期間終了(6/21(金))以降にゼミナール履修選抜システムで確認することができます。

注意事項

ゼミナールの履修確定状況については必ず履修選抜システムで確認し、教務センターや個別教員に問い合わせをしないでください。

9.ゼミナール非確定者について

ゼミナール履修選抜が終了し、履修するゼミナールが確定しなかった学生が多数の場合には2次募集を行う場合があります。履修するゼミナールが確定しなかった学生は、履修選抜期間終了後も、ALBO、メールの確認を定期的に継続するようにしてください。

10.ゼミナール紹介

以降のページでは各ゼミナールが紹介されています。履修したいゼミナールの紹介をよく読んでエントリーしてください。

中山恵子 ゼミナール (ミクロ経済学)

1. 研究内容および計画

ミクロ経済学入門・マクロ経済学入門で修得した知識を踏まえながら、経済学の全体像を把握するとともに、市場メカニズムの理解に努める。やがて社会に出た際、経済学部出身者として恥じぬよう、経済学の基礎理論を理解し、経済学がいかに身近な存在であるかを意識してほしい。

2・3年では主として経済の基礎理論を学ぶが、テキストや進め方は学年によって異なる。但し、基本的には学生と相談しつつ、ゼミの内容を決定し、就職試験対策として、学生の選んだトピックスに関するディスカッションやSPIの練習も行っている。新聞記事のまとめなどは、上級生が添削を行ってくれている。他にも、適性テストと解説を外部の方を招いて実施している。また、上場企業の人事の方や、官公庁の方(例：リクルート、愛知労働局はじめ多数)がいらして、就職に関するお話をお聞きする機会は多い。

2年のゼミには、当初、上級生が来て、ゼミの進め方を中心に指導してくれるのが通例となっている。また、4年生は、最終学年でもあるため、経済に関連する各自の関心事をテーマとしたレポートを課しており、毎回、数人の学生に、レポートの進行状況の報告を割り当てている。最終的には、2年、3年のゼミ生の前で、卒論報告はパワーポイントを用いて行い、学生からの希望により、学生の評価も加味したうえでの評価としている。

私立大学の文系のゼミでは珍しいが、ここ数年、東京の企業から研究費を年間100万円いただいている。お金に見合っただけの研究とその報告に向けて、机上の空論ではなく、生の経済に触れ、いろいろな体験をしてほしい。コロナ蔓延により、近年は自粛しているが、上場企業のバレーボールVリーグの地域に根差した活動の企業からの委託や、豊田市との街づくりのコラボ、愛知県・名古屋市との観光イベントコラボなどを過去には実施してきた。学生による自主ゼミも行われているが、こうした活動を通しての成長を財産としてほしい。

(尚、ゼミとしてボランティア活動は行っておらず、企業からの研究費、寄付金に基づいての活動である。)

2. 評価方法・基準

意欲ある明るい学生を希望する。エントリーシートを重視するため、熱意あるエントリーシートを期待している。相手を思いやれる人、何かを変えたい人に来てほしい。

中山ゼミは成績の良い学生も多いが、必ずしも成績で集めているわけではなく、成績の悪い学生はよい学生を刺激として、ゼミに入ってから皆が成績をアップしている。ゼミに積極的に参加し、ゼミ生間で交流を深め、学業も他の部分もともに伸びてくれる学生を望む。公務員、民間、進学、いずれを目指すにしろ、ステップアップとしてゼミを考えてほしい。

3. 説明会・質問の対応について

コロナ禍では自粛していたが、皆さんの希望が多いため、今年はコロナ禍前と同様、個別のゼミの説明会とゼミ見学会を実施する予定である。現状では、4月25日(木)、5月9日(木)の4限にゼミ見学会、5限にゼミ説明会を実施する予定である。まだ教室が確定していないが、ゼミの教室で実施するつもりである。変更があれば、MaNaBo等で伝達するので、注意してチェックしてほしい。関心がある人は、必ず参加してもらいたい。1年の入門ゼミ受講生であっても同様である。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

最初に学籍番号、氏名を明記し、質問番号と質問内容も記すこと。

- ① あなたが中山ゼミを希望する理由(決め手を簡潔に)とゼミ生になったら具体的かつ詳細にゼミでどのような活動を行いたい。尚、ボランティア活動はゼミとして実施しない。
- ② 将来、目指すものは何かとそれに向けての取り組み。なければ、学生生活をどう過ごしたいか。
- ③ 最近の経済記事で興味あるものは何か。理由と意見を明確に。

5. 学生へのメッセージ

意欲的にゼミに参加できる明朗な学生を希望する。原則として、ゼミにおける学習態度および出席を重視する。尚、企業人や卒業生をゼミに招き、学外の有益なセミナーの紹介や就活に向けてのアドバイスを行うなど、学生の就職活動を支援しているので、それに応えられる学生の受講を望む。4回生が就職活動状況を3回生に報告、インターンシップの体験を報告するなど学年を超えての交流も深い。また、学生の作成したゼミのホームページやメルマガ配信もあるので、上手に活用してほしい。企業との共同企画や名古屋港見学、東証一部企業主催の研究発表会参加など、年度により活動は異なるが、熱心に参加し、何かを得てほしい。

椿ゼミナール（イギリス社会経済史）

1. 研究内容および計画

近代資本主義が最初に出現したのが、ヨーロッパや北アメリカの西洋世界である。中でもイギリスは、他に先駆けて「産業革命」に成功し、19世紀半ばには「世界の工場」と呼ばれ、海外に広大な植民地をもつ帝国を築いた。その後、世界経済の覇権を失い、経済衰退に苦しんだ時期もあるが、21世紀の現在も、イギリスは存在感のある国の一つである。

政治制度や文芸をはじめ、住宅や都市計画、音楽やファッションの大衆文化などはもちろんのこと、多くのスポーツ発祥の地でもあり、この国が世界に与えた影響は大きい。経済の分野では、1930年代の世界恐慌の最中、大量失業に対処する経済学の新しい理論を打ち立てたケインズや、「ゆりかごから墓場まで」のスローガンで知られる、戦後福祉国家の理念を提唱したベヴァリッジは、共にイギリス人である。

従来、イギリスの近代化・工業化は、日本が見習うべきモデルであった。1960年代の日本の高度成長とともに、このような見方も次第に薄れてはきたが、まだまだイギリスをはじめ欧米の経験に学ぶべきところは多い。

★本ゼミナールでは、こうしたイギリスの工業化から今日までの歩みを、広く欧米の動向も視野に入れ、経済のみならず、政治・社会・文化・生活・余暇・思想などの観点も交えて多面的に検討する。

2年次は、西洋経済史やイギリス近現代史の文献を取り上げ、テキストに基づく学生諸君の発表と討論を中心に進める。使用テキストは、学生諸君の問題関心や希望に配慮し、決定したい。3年次は、テキスト輪読と並行して、学生諸君と相談の上、テーマを選択してグループ学習を実施する。候補としては、「戦後復興と社会改革」・「福祉国家の成立と展開」・「経済成長、経済衰退と経済政策」・「イギリスの階級社会とアイデンティティ」・「EU離脱後のイギリス」・「イギリスのスポーツ文化」・「イギリス社会と移民問題」などが考えられる。4年次は、各自の卒業論文の指導を行う。

また随時、映画、ドキュメンタリー、報道番組等の視聴覚教材の鑑賞を通じて、イギリスやヨーロッパ、アメリカの歴史や社会の実相に触れてもらいたい。

より詳細なゼミナール活動計画については、Webシラバスも参照してほしい。

参考までに、近年の演習で取りあげた輪読文献を数点挙げておく：

- ・長谷川貴彦、『産業革命』（山川出版社 2012）
- ・マーク・マゾワー（中田瑞穂、網谷隆介訳）『暗黒の大陸：ヨーロッパの20世紀』（未来社 2015）
- ・鶴岡路人、『EU離脱：イギリスとヨーロッパの地殻変動』（筑摩書房 2020）

2. 評価方法・基準

基本的に、エントリーシートの記述内容によって判断する。

3. 説明会・質問の対応について

質問のある人、より詳しいことを知りたい人は、遠慮せずメール（tsubaki@mecl.chukyo-u.ac.jp）で問い合わせるか、あるいは火曜日5限のオフィスアワーに研究室（14号館4階441号室）を訪ねてほしい。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

履修を希望する学生は、エントリーシートの「1.志望動機」欄の記述内容との相互関連に配慮しながら、次の④、⑤いずれか一つについて記してほしい。

- ④ すでにイギリス、あるいは広く欧米になんらかの関心をもっている人は、関心をもったきっかけとその内容、勉強したいと思っていること、そして本ゼミナールへの期待・要望
- ⑤ 関心をもった欧米を題材とする本、映画やドキュメンタリーの内容、そして本ゼミナールへの期待・要望

5. 学生へのメッセージ

ゼミナールを新たな交流、友人作りの場と考え、各々の学問的興味や問題関心に基づいて、希望のゼミナールを選択することが大切である。次のような学生諸君の履修をとくに希望する：

- ①歴史の好きな人、②英語や欧米の文化に関心をもつ人、③日本やヨーロッパ、アメリカとの比較の観点からイギリスに注目している人、④活字を読んだり、文章を書いたりすることが好きな人、⑤自由時間を図書館で過ごすのが好きな人

私たちは、人生で重要な決断を迫られたとき、また世の中の出来事を評価する際、意識的に、あるいは無意識のうちに過去の事例との比較を行っていないだろうか。このゼミナールを通じて、人々が過去に、さまざまな境遇の下でいかに生き、行動したかを理解し、今日の社会状況や日々生起する新しい事態に知的な対応をとれるようになってほしい。

近藤ゼミナール(国際経済学)

1. 研究内容および計画

本年度はアジア諸国やその他の新興国の経済事情について研究をします。私の担当する講義では、国際経済学など理論的な内容を中心に扱っており、こちらが一方的に教えています。しかしゼミでは学生の活動が主体となるため、経済理論は使いません。講義の内容をイメージしてゼミに入ると、期待したものと違ったこととなりますので、留意してください。

はじめの1年半は共有する知識の確立のために、『そうだったのか、中国』(池上彰、集英社文庫)や『図解 ASEANを読み解く』(みずほ総研、東洋経済)のような入門書から出発して、学生の希望をもとに3~4冊の本を選んで輪読します。学生は各自が担当することになった箇所の内容について、その他の文献・資料に幅広く当たって最新の情報を調べ、パワー・ポイントを使ってプレゼンテーションすることになります。情報の更新は非常に大切で、本に出ている古いデータが現在どう変化しているかを調べてこなくてはなりません。またプレゼンの能力は社会に出てすぐに必要となりますので、ゼミではそれを鍛えることも目的としています。さらに報告者に対する適切なコメントやディスカッションができるようになることも目指します。

3年生の秋学期の終わり頃にインター・ゼミがあります。3年生になったら6人程度のグループに分かれて研究テーマを決め、通常のゼミの活動と並行して共同研究をすすめ、研究内容を名古屋大学、南山大学、愛知大学等他大学の学生の前で30分程度報告します。レベルの低い報告ははっきり言って恥ですので、内容もプレゼンの仕方も質疑応答も、高いものが要求されます。

4年生になったら、各自でテーマを選び、卒業論文作成の準備に取りかかります。ゼミでの発表も卒業研究から自分でコアとなるものを選んで報告することになります。ゼミで指摘されたことを受けて、各自研究をいっそう磨き上げ、1月に卒業論文として提出してもらいます。400字詰め原稿用紙換算で50枚必要です。過去の卒業論文のテーマはさまざま、広く国際経済に関するものなら何でも認めます。学生生活最後に腰を据えて研究をするのですから、自分のやりたいテーマをじっくり探して見つけてください。

2年生の春休みにゼミ勉強合宿があります。全員参加です。ガチで勉強して、ガチで楽しみます。

2. 評価方法・基準

希望者が多数の場合は、就職活動と同様にエントリーシートと面接で評価をします。制約がある中でいかに自分の能力、価値ややる気をアピールできるかが、企業の就職活動でも問われますので、就職活動と同様の心構えでエントリーシートに記入し、面接にも臨んでください。

3. 説明会・質問の対応について

MaNaBoのオンライン説明会を視聴してください。ゼミの学習活動についての質問や個人的な質問は、メールやオフィス・アワー(木曜日 12時20分から13時)で対応します。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

中国、韓国、アメリカ、イタリアのどこか1つの国を選んで、あなたがやりたいビジネスを計画してみてください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミはできるだけ自分たちの関心にしがたって勉強する場としたいと思っています。必修科目ではないので、しっかりやろうという気持ちの強い人を待っています。

楽しくなければゼミは少人数の講義とたいして変わらないものになりますが、それには学生が自分たちでこんな楽しいゼミにしたいと動くかが重要です。基本的にこれまでの近藤ゼミの諸活動は、学生の発案を受け入れる形でなされてきました。楽しいことができるかどうかは、自分たち次第です。

ゼミは学生生活の後半になって新しくスタートし、2年半も続きますから、新しい友人を作る最後のチャンスでもあります。私がそうだったように一番の親友と出会えることも十分あると思います。

最後に、3人ほど義務付けられるゼミ合宿での報告者、男女各1名の卒業論文免除者をどのように人選しているのかについては、ここでは書かないので先輩などから聞いてください。

阿部ゼミナール(日本経済史)

1. 研究内容および計画

経済史とは経済現象の長期的分析を進める学問です。長期的分析を歴史的分析といいかえることもできます。日本経済史は、経済面から日本社会の歴史を研究します。

このゼミでの研究テーマは「歴史資料で読み解く経済の歩みと地域社会」です。身近な地域をとりあげて、経済学の1分野としての経済史の方法について学びます。経済史の方法というと難しく聞こえるかもしれませんが、経済学を前提とした歴史的な考え方、歴史資料の読み方に触れてもらいたいと考えています。

2・3年次では、江戸時代から現代までの地域社会の変貌を物語る歴史資料を取り上げます。20世紀末からすでに言われていたように、21世紀には、グローバル化と情報化の急激な進展によって、江戸時代以来の歴史的な特質や伝統は、消滅の最終局面を向かえつつあるようです。

文書や碑文、絵図や写真等、様々な歴史資料を読み解き、地域社会の変貌過程をたどりながら、歴史的な特質や伝統の行方について、みなさんと語り合うことができたらと思っています。

また、3年次の秋学期からは、各自がテーマを決めて、ゼミ研究に取り組みます。日本各地の経済や社会を歴史的にみても、興味深い研究テーマがたくさんあるように思われます。また現在みられる地域の問題を、歴史的に分析するのも、おもしろいかもしれません。

ゼミ研究では、各自の関心に基づき、調査を繰り返してテーマを掘り下げ、最終的には4年次の秋学期末にゼミ修了論文を完成させます。

2. 評価方法・基準

エントリーシートの記載内容に基づいて決定しますが、必要に応じて面接を行う場合もあります。

3. 説明会・質問の対応について

質問には火・水・木曜の昼休み(12時半以降)に、阿部の研究室で対応します。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

出身地や居住地の歴史に関連して、関心・興味を持っている出来事、名所・名物、文化財のうちから、1事例を具体的に紹介して(写真を付けても良い)、その選択理由を述べる。

5. 学生へのメッセージ

日本経済史は経済学の他の分野とちがいで、必ずしも数学や統計の知識を必要としません。最近では、研究対象とされる歴史資料の幅も広がってきています。文献・文書・文化財をはじめ、写真・映像、さらに産業遺産や近代化遺産と呼ばれる機械・設備・工場等、日本経済史の研究材料は実に多彩です。日本各地の歴史や文化に興味を持ち、好奇心の強い人達を歓迎します。

釜田ゼミナール（経済政策）

1. 研究内容および計画

政府は、財政、金融、貿易、環境、医療、福祉、教育、労働などのさまざまな分野において、直接的に経済活動を行ったり、民間（家計・企業）の経済活動に影響を与える間接的な活動を行っている。経済政策とは、このような政府の活動のすべてを含む。本ゼミナールでは、さまざまな分野から、最近、社会で注目されている問題を取り上げて、なぜ政策が必要とされるかということや、どのような政策をとると、どのような効果が期待されるのかということについて考えていきたい。具体的には、財政赤字、少子化対策、年金・医療・介護保険政策、教育政策、文化政策・観光政策などに私は興味を持っているが、履修者が興味のある問題があれば、それも取り上げる。

ゼミの進め方としては、なるべくさまざまな問題を勉強したいので、特定の教科書は使わない。テーマに応じて私が文献を用意するので、それをもとにグループ（3～4人）でワークを行い、グループ発表をしてもらう（2年秋～3年）。これにより、グループによる課題解決の方法を身につけるとともに、個人レベルでの分析能力とプレゼンテーション能力の向上を図る。また、政策（行政）の現場を知るために、市町村など自治体との連携も考えている。

さらに、現実の経済データにあたってみることは、経済問題の本質をとらえる上で大変役立つので、4年次には、パソコンを用いて経済データの処理の仕方について学習する。そして、学生各自が選んだテーマについて、自分でデータを集めて分析を行い、卒業論文を作成する。

本ゼミナールでは、経済学の専門知識を蓄積するとともに、社会で活躍できるコンピテンシー（特性）を身につけることを行動目標とする。キャリア講座、業界研究シリーズ、個人面談、先輩・卒業生との交流などを通じて、キャリア教育にも力を入れていく。

2. 評価方法・基準

- ・ エントリーシートに基づいて、第1次選考を行います
 - ・ 第2次選考として面接を行います（オンラインで行う予定）
- ※志望度の高さを重視します

3. 説明会・質問の対応について

- ・ ゼミ紹介スライドをManaboにアップするので、参考にしてください
 - ・ 対面の説明会も実施予定です。詳細は追ってお知らせします
 - ・ メールや研究室訪問（メールで事前にアポをとってください）でも質問に対応します
- メールアドレス：kkamada@mecl.chukyo-u.ac.jp

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

現時点における卒業後の進路希望について、なるべく詳しく書いて下さい。また、それを実現するためにやっていることやこれからやろうとしていることがあれば、それについても書いて下さい。

進路希望が明確でない人も、これをきっかけに少し考えてみると良いです。

5. 学生へのメッセージ

・ ゼミ旅行、懇親会、スポーツなどの課外活動も、ゼミ生の希望に応じて行います。旅行は毎年海外に行っています。これまで、イギリス、ドイツ、フランス、香港、台湾、韓国などに行きました。学生時代に異文化体験をしておくことは視野が広がって大変良いと思います。

・ 2年半という長い付き合いになるので、ゼミでの勉強およびゼミの仲間との交流に積極的に取り組みたい学生が適しています。

小林ゼミナール (金融論)

1. 研究内容および計画

2年生は、保険論の基礎を学びます。

3年生は、参加者の希望に従って、保険論に限らず金融論の様々な分野について勉強します。金融機関や金融市場、金融商品といった分野が主な対象となります。

参考：最近輪読で使用したテキストの一例

「初めて学ぶ保険のしくみ」中央経済社

「会社四季報公式ガイドブック」東洋経済新報社

「ファンダメンタル投資の教科書」ダイヤモンド社

他にも、グループ学習（グループごとにテーマを決めて調査・発表する）など

もあり、参加者の意向で決定します。

最近は、3年生の秋学期は日経 STOCK リーグ（バーチャル株式投資やレポート作成などの学習コンテスト）に参加することが多いです。

4年生は卒論（テーマ自由）作成・発表が中心です。

2. 評価方法・基準

エントリーシートの内容で選抜します。意欲あふれる記述を期待しています。

3. 説明会・質問の対応について

個別に質問がある人は、金曜日 5 限に研究室で受け付けます。気軽に訪問してください

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

最近の経済に関するできごとを自由に一つ選び、あなたの意見を述べてください。

5. 学生へのメッセージ

積極的にゼミに参加する意欲がある人、さまざまな経済現象に興味がある（興味を持つと努力する）人の応募を歓迎します。

鈴木 ゼミナール (都市・交通問題の研究)

1. 研究内容および計画

長かったコロナ禍もようやく終息し、中京大学の風景も見慣れたものに回帰してきました。ゼミナールについてもコロナ前に戻り、いつも通りに実施したいと思います。

本ゼミナールでは、都市・交通問題の構造の理解とその解決方法を経済学的な視点から学ぶとともに、ゼミ生同士のグループでのコミュニケーションを活かして協調的に問題解決ができる人になることを目指しています。ゼミの内容と計画は以下に示す通りですが、ゼミ生の意見も取り入れながら柔軟に変更して行きたいと思っています。

2年次には、コミュニティバスの運営という身近な交通プロジェクトを地域における交通問題への取り組みの実例として捉え、経済理論と現実問題の関係やプロジェクトマネジメントの方法論を学びます。また、2から3年次にかけては、ゼミで統一したテーマについて各自がレポートを作成し、相互評価に基づく協調学習を行います。学生間の相互評価を通じてテーマについて広く知識を修得し、各自のレポート作成能力の向上を目指します。この課題は、卒論執筆のための最初の準備とも言えます。

3年次の前半では、社会問題の理解や解決を促進するためのツールであるゲーミングシミュレーションにグループワークで取り組みます。後半には、ゼミ生が交代で講師として興味を持った社会問題についてプレゼンを行い、グループディスカッションを通じてその解決策を議論します。

4年次には、それまでの学修成果を基礎として各自で卒業論文を作成します。内容については、希望があれば、都市・交通以外の分野でも構いません。

正課外の活動もゼミ生中心の主体的な取り組みとして、徐々に取り戻していきたいと思っています。

2. 評価方法・基準

昨年度に引き続きエントリーシートによる書類選考で評価します。本ゼミには、多様な学生に参加して欲しいため、成績を評価対象としていませんが、決してバカを優遇している訳ではありません。他の志望する学生を上回るように真剣にエントリーシートを書きましょう。やる気を形にすることが大切です。また、選考をスムーズに進めるためにも、履修相談時に案内のあった経済学部の授業支援システムの顔写真の共有に協力をお願いします。その他大勢に紛れていると人間はあまり成長しません。是非、多くの人に自分の名前と顔を知ってもらいましょう。

3. 説明会・質問の対応について

ゼミナールの内容について疑問などがあれば MaNaBo のメールで送って頂いて結構です。可能な範囲で回答したいと思います。間違っても他の教員に送らないように必ず宛先を確認しましょう。また、直接話を聞きたい人は5限や昼休みであれば対応できると思いますのでアポイントのメールを送ってください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

本ゼミナールの選考課題は「あなたが好きな都市を代表する景観を画像で紹介し、その景観が代表的である理由とその都市の魅力について説明しなさい。」です。なお、画像は自身で撮影したものでなくてもいいですが、転載する場合にはその出典を明記することを忘れないようにしてください。例年、都市と自治体の区別がついておらず、落ちる人がいます。例えば、東京という都市と東京都には大きな違いがあります。気を付けましょう。

5. 学生へのメッセージ

何事にも主体的に取り組み、他のゼミ生と楽しくコミュニケーションができる学生を募集します。本ゼミナールでは「リアクションが主役を育てる」を合言葉に、誰もが主役になったときにそれを楽しめる雰囲気的大事にしています。自分の発表でなければ平気で遅刻したり、欠席したりする身勝手な学生は迷惑なので応募を控えてください。全員が仲間に対するサービス精神を持ってゼミを盛り上げましょう。スポーツ、旅行、コンパなどについてはゼミ生の企画力に期待しています。四年間は思いのほか早いので、苦勞を避けず、価値の高い学生生活を送ってください。

平澤ゼミナール (財政政策)

1. 研究内容および計画

財政政策とは、政府が公共投資や政府消費などの政府支出、あるいはその財源となる税を変化させることなどを通じて、経済に働きかける政策のことです。財政政策に関わる問題としては、例えば、経済の変動に対して財政運営、財政政策がどうあるべきか、また、それがマクロ経済に与える影響について（どのような効果があるのか、意図した効果は本当に得られるのか、など）や財政の持続可能性の問題（政府の累積債務問題、政府は破綻することなく政策を実行していけるのかどうか、など）といった問題があります。このゼミでは、そのような財政政策に関わる問題について勉強していきます。

まず、2年次から3年次前半では、ゼミ生の興味に合わせて選んだ財政に関するテキストを使って、財政政策の問題を議論する際の土台となる財政学の基礎を学習します。ここでは、単にテキストを読んでまとめるだけではなく、例えば自分自身でデータを集めてテキストの中のグラフを再現してみたり、データを延長して（あるいは他の国や地方のデータを使って）グラフを描いてみたり、また、理論的な議論の数値例を考えてみたりしながら、テキストをより深く読み込んでいきます。本演習は、ゼミ生が割り当てられた箇所を報告する発表形式で進めていきます。報告者以外のゼミ生も、質問をする、報告の内容について議論をするなど、積極的にゼミに参加する姿勢が要求されます。続いて3年次後半には、卒業論文のテーマの決定を目指して財政政策に関わる問題について各自（あるいはグループ）で調査、検討をしてもらい、その結果を報告してもらいます。この段階は、まだ情報交換の意味もありますので、他の人の報告を聞いて、そこから何か自分が興味のある問題を見つけてもらっても構いません。そして、4年次には、各自でテーマを設定して卒業論文をまとめてもらいます。

2. 評価方法・基準

基本的にはエントリーシートの内容により評価します（ただし、必要に応じて面接を行う場合もあります）。

3. 説明会・質問の対応について

質問がある場合は MaNaBo でメールをください。研究室でも質問に対応しますが、その場合も事前に MaNaBo のメールで連絡をしてください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

次の (1), (2) に答えてください。

(1) 1年次に履修した「マクロ経済学入門」および「ミクロ経済学入門」で学修した内容の中で、あなたが最も興味を持った議論をマクロとミクロからそれぞれ一つずつ選び、なぜ興味を持ったのか、その理由を説明してください。

(2) あなたが関心のある経済の問題を一つ選び、その概要を簡潔にまとめてください（表やグラフを使っても構いません）。そして、その問題に関心を持った理由（きっかけ）を説明してください。

5. 学生へのメッセージ

政府の経済活動（財政）に関わる問題に関心がある人を歓迎します。

古川 章好 ゼミナール (地方財政論)

1. 研究内容および計画

普段我々は消費税を始めとする税金を払っている。政府は、その税金を使って公共投資等の公共サービスを提供している。財政学では、このような政府が行う経済活動に注目している。財政学で扱う分野は広大であり、例えば「政府」といってもその種類には様々なものがあり、代表的なものとして、国、都道府県、市町村がある。古川章好ゼミでは、都道府県や市町村といった地方政府による税金の取り方およびその使い道を経済学の知識を利用して考察することにより、地方政府が経済に与える影響を考えることを目的とする。

ゼミでは、まず財政学および地方財政論を理解するために必要であり、その基礎となるマクロ・ミクロ経済学の知識の習得を目指す。そのために、ゼミではマクロ・ミクロ経済学に関して学び、知識を再確認する。実際のゼミでは、各ゼミ生の担当を決めた上で、担当部分に関してゼミ生が報告し、質疑応答をする予定である。3年次にはゼミ生の関心のあるテーマに関して研究活動を実施する。まずは研究活動方針について議論する。その後、決定した研究テーマに関してゼミ生で報告し、質疑応答を行う。さらに、他の大学が集まってお互いの研究内容を報告するインターゼミ等に参加して報告することも予定している。4年次にはこれまでの報告を通じて各自で関心のあるテーマを決定し、卒業論文の完成を目指す。

2. 評価方法・基準

エントリーシートの内容および成績等から総合的に判断する。

3. 説明会・質問の対応について

個別に質問がある場合は、原則として MaNaBo メールで受け付ける。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

以下の2つの質問に答えてください。

- (1) 地方政府と経済学との関係について解説してください。
- (2) あなたの将来の目標と、その目標達成のために古川(章)ゼミで何がしたいのか述べてください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミは、ゼミ生が中心となって進められるものです。様々な問題に対して自分で考える能力を身につけるため、ゼミの中で積極的に発言することを求めます。そのために、ゼミ生に対しては、

- (1) 担当部分に関する内容報告
- (2) ゼミでの質疑応答
- (3) テーマ毎のレポート作成

を行うことを要求します。単位認定は、これらの内容と普段のゼミでの発言の様子等を総合的に評価して行います。

内田俊博ゼミナール（行動経済学・行動データサイエンス）

1. 研究内容および計画

内田ゼミでは、行動経済学とその分析手法や応用方法を学びます。最近、行動経済学の面白い研究例を紹介した書籍が多く出版されていますが、本ゼミではさらに一步踏み込み、行動経済学を用いた分析や新たな応用ができるようになることを目標とします。行動経済学の分析フレームワークとともに、プログラミング言語の Python（パイソン）や関連するデータサイエンスの手法も積極的に学んでいくため、ゼミの分野を行動経済学及び「行動データサイエンス」と名付けています。

具体的には2年次と3年次に以下のような内容を学ぶ予定です

- ・行動経済理論（リスク回避・時間割引・社会的選好の理論と測定方法）
- ・Pythonの基礎
- ・機械学習・ディープラーニング入門
- ・自然言語処理入門
- ・因果推論とその応用

また、3年次の秋学期には中部経済学インターゼミに出場します。4年次は個人またはグループで卒業研究を進めるとともに、必要に応じてより進んだ分析手法を学んでいきます。

2. 評価方法・基準

成績およびエントリーシートの内容で総合的に判断します。なお必須ではありませんが、データサイエンス方面に興味のある学生は以下の科目を履修することを勧めます。

（1）経済数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ （2）統計学の基礎・統計学 （3）計量経済学Ⅰ

これらの科目を履修していないと応募を受け付けないということではありませんが、ゼミで勉強したいことや自分の興味と照らし合わせて履修上の参考にしてください。また、Pythonについては初歩から教えるので経験は必要ありません。

3. 説明会・質問の対応について

メールでの質問対応を基本とします。MaNaBoのメール機能を使ってください。また、ゼミ見学を希望する人は事前にメールを送ってください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

内田ゼミで学びたいことや身につけたいこと、今まで力を入れてきたこと、将来の目標など、何でも構わないので、選考にプラスになると思うことについて一つテーマを決めて、600字程度で書いてください。

例年、この質問に対して高校時代に力を入れたことについて書く人が多いですが、できれば大学入学後や将来のことを書くようにしてください。

5. 学生へのメッセージ

私の研究テーマは環境経済学と行動経済学の境界領域で、企業や人々の環境行動を行動経済学的視点から分析しています。本ゼミでは特に環境問題に絞らず、行動経済学とその分析・応用手法を広く学んでいきます。学ぶべき内容は多いですが、ゼミの内容に興味があれば楽しく勉強できると思います。

都丸ゼミナール (ミクロ経済学全般を数学的に理解する)

1. 研究内容および計画

詳しい内容はMaNaBoにアップロードしてある資料を見てほしい。

2. 評価方法・基準

《**必要条件**》経済数学 II およびミクロ経済学入門を修得済みで、かつ、経済数学 III を履修していること。

《**評価方法**》上記の**必要条件を満たしていることを前提**として、エントリーシートの内容で評価する。

3. 説明会・質問の対応について

質問があれば、メールをするか、あるいは、研究室を訪問してほしい。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

以下の問 1~問 4 のうちのどれか 1 つに解答せよ。なお、文字入力が困難な場合は手書きのものを画像として、解答欄に貼り付けてもよい。また、解答は何ページにわたってもよい。

問 1 (数学の問題)

$$f(x) = x^4 + x^3 + \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{6}x + \frac{1}{24}, \quad g(x) = x^5 + x^4 + \frac{1}{2}x^3 + \frac{1}{6}x^2 + \frac{1}{24}x + \frac{1}{120}$$

とする。このとき、以下のことが成り立つことを証明せよ。

(a) 任意の実数 x について、 $f(x) > 0$ である。

(b) 方程式 $g(x) = 0$ はただ 1 つの実数解 α をもち、 $-1 < \alpha < 0$ である。

問 2 (ミクロ経済学入門と経済数学 II の融合問題) ある消費者の効用関数が

$$u = U(x_1, x_2) = (x_1 - \bar{x}_1)^\theta (x_2 - \bar{x}_2)^{1-\theta}, \quad 0 < \theta < 1$$

で与えられている。ただし、 x_1 と x_2 は第 1 財と第 2 財の消費量であり、 \bar{x}_1 と \bar{x}_2 は正の定数である。各財の価格を p_1 、 p_2 とし、消費者の所得を I とするとき、消費者の最適消費量を求めよ。ただし、所得は $I > p_1\bar{x}_1 + p_2\bar{x}_2$ を満たすほどに十分な額だとする。また、各財の限界効用は偏微分によって求められることを利用してよい。

問 3 (マクロ経済学入門の問題) IS-LM 分析について以下の問に答えよ。

(a) IS 曲線がどの市場に着目して、どのような仕組みで導かれるグラフなのか説明せよ。

(b) 横軸に(実質)GDP、縦軸に(実質)利子率をとる平面に描かれる IS 曲線と LM 曲線を考える。それらの曲線より上方にある GDP と利子率の組み合わせは、関連する市場においてどのような状況にあるか説明せよ。

問 4 (英語の問題) 以下の文章で述べられている内容を自身が受講した講義内容と関連付けながら説明せよ。

Economists normally assume that people are rational. **Rational people** systematically and purposefully do the best they can to achieve their objectives, given the available opportunities. As you study economics, you will encounter firms that decide how many workers to hire and how much product to make and sell to maximize profits. You will also encounter individuals who decide how much time to spend working and what goods and services to buy with the resulting income to achieve the highest possible level of satisfaction.

Rational people know that decisions in life are rarely black and white but often involve shades of gray. At dinnertime, you don't ask yourself "Should I fast or eat like a pig?" More likely, the question you face is "Should I take the extra spoonful of mashed potatoes?" When exams roll around, your decision is not between blowing them off and studying 24 hours a day but whether to spend an extra hour reviewing your notes instead of playing video games. Economists use the term **marginal change** to describe a small incremental adjustment to an existing plan of action. Keep in mind that *margin* means "edge," so marginal changes are adjustments around the edges of what you are doing. Rational people make decisions by comparing *marginal benefits* and *marginal costs*.

5. 学生へのメッセージ

大学院を目指す人や経済理論・数学をしっかりと学習したい人材を求めます。

増田 ゼミナール (統計学/データ分析)

1. 研究内容および計画

統計学とは、統計データに関する学問です。統計データは数字の集合であり、数字にアレルギーがあると勉強するのが辛く感じるかもしれませんが、数学自体は四則演算程度ができれば、なんとかなります。近頃はデータサイエンスが話題ですが、データサイエンスを理解する上で統計学は必須の要素になります。実際にデータサイエンスでは統計学だけでなく、プログラムやデータベース等の情報技術も駆使していくことになります。

さて、本ゼミでは統計学を応用してデータ分析の方法論を学んでいきます。経済学部にも所属しているので経済データを利用してデータ分析を行います。「経済学」自体を勉強するものではありません。企業・役所等に就職した後もデータサイエンティストとして役に立つ統計ツールを主として学んでいきます。

具体的には次のような内容を行います。

「データを取ってきて、それを洗浄(クレンジング)して分析を行い、さらに分析結果をプレゼンする」ことを学びます。

2年次

統計データを取得する方法と分析する方法を学びます(コンピューター実習)

教科書の輪読や統計学の授業は行わないです(必要に応じて講義を行う可能性があります)

3年次

インターゼミ(他の大学と集まって研究報告を互いに行う会)に参加します。自分たちでテーマを決めて、データを探して分析を行い、プレゼンの練習をして本番の報告に臨みます。

4年次

卒業論文を書きます。

2. 評価方法・基準

エントリーシートでのゼミナール指定欄の内容がきちんと書いてあれば、1年次の成績と2年次の履修科目で評価します。具体的には1年次の「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」「経済数学Ⅰ」「経済数学Ⅱ」「データから見た経済」「統計学の基礎」の成績と「統計学」の授業を受講しているかどうかで判断します。特に「経済数学Ⅱ」「統計学の基礎」の成績を重視します。

また、「データから見た経済」や「統計学」や「統計学の基礎」等を受講していない場合には面接等を行う場合があります。

3. 説明会・質問の対応について

個別に質問がある場合には昼休みの時間に研究室に来てください。それ以外の時間でも研究室にいて仕事等が入ってなければ対応します。また、Eメール(jmasuda@mecl.chukyo-u.ac.jp)やMaNaBoのメールでも質問を受け付けます。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

あなたの関心があることをChatGPTやCopilotやGeminiのような生成AIを利用して調査してまとめてください。

- 生成AI等の利用がきちんとできているかを判断します。
- どのようなことを調査しても構いません。
- 生成AIで示されたことは「」を利用して分かるようにしてください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミの目標は「数字とコンピューターに強くなろう」ということです。現代社会であふれる虚偽の数字を見抜ける力を身に付けることを目指しています。このような方針を掲げているため、数字やコンピューターにアレルギーを持っている方には、本ゼミナールを希望しない方が良いかもしれません。ただ、数学はほとんど使いませんし、使う場合はフォローしますので、数学をやったことがない方でも参加可能です。また、数学的思考は必要ですので、数学が得意な方は大歓迎です。

レクリエーションは学生主体で企画立案を行い、法律を守っている限り自由に遊んでもらって構いません。

西本ゼミナール（経済学史）

1. 研究内容および計画

このゼミナールは、経済学史（経済学の発展の歴史）のゼミです。経済学史とは、どんな経済学者によって、どんな時代背景の中で、どんな思想の中で、理論が生まれたのかを過去に遡って見ていくという学問です。

経済学史を学ぶと、経済理論は理論だけで独立しているのではないと気づきます。私の経験をお話すると、お恥ずかしながら私が大学入学したての時、人の好意でさえお金で買えるんじゃないかと思っていました。世の中結局「地獄の沙汰も金次第」のところがあって、皆、口には出さないだけで、本当はちょっとくらいそういう風に思っているんでしょ、と。でも、歴史系のゼミに入って過去の経済学者の考えを深く知ること、経済学ってそんな考えで作られてるんじゃないんだと気づかされました。それが私にとっての経済学史の魅力です。また、大学生活では就職に向けての活動も大切です。授業では、キャリア形成に活用できるアセスメントもします。

<授業スケジュール>

2年次後期では、1回の授業を**前半＝キャリア**、**後半＝経済学史ゼミ**に分けて進行します。キャリアでは、3つ以上の心理アセスメントテストで自分を見つめます。学史では、文章の読み方・レジュメの作り方・発表の仕方を練習します。テキストは、面談で紹介します。

3年次では、キャリアでは、ギャラップ・ストレンクス（受講料割引価格で1500円程度/2024年3月時点）を受けてもらい、自己の性格を深掘りするワークを行います。学史では『千と千尋の神隠し』を題材に、古典派経済学を学ぼうと思います。

4年次では**卒論**指導を行います。使える時間やエネルギーから、**Sコース**（卒論コース）か**Bコース**（卒論発表会コース）かを選んで、ゼミでは中間発表を行なってもらいます。

2. 評価方法・基準

1. エントリーシートを提出

2. 面談（個人なら5～10分程度、複数名なら20分ほど。どちらかは人数によって決めます）
ゼミを強く希望する人は、面談のため6月5日（水）13時～16時を空けておきますので、445研究室に来てください（重なった場合は順番を待ってもらうことになります）。面談の目的は、審査というより、私からゼミで使う教材を見せながら、ゼミで行う内容が本当にあなたに合ったものなのか、確認してもらうことです。

3. 説明会・質問の対応について

MaNaBoにアップロードしてあるPPT動画で説明を行います（それが説明会の代わりになります）。質問の対応は基本的にメールでします。アポ無しで来てもらっても、不在のときがあったり、時間が取れない場合があったりしますので、まず nishimoto@mecl.chukyo-u.ac.jp にメールをください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

エントリーシートには、次の項目について**全て**答えてください。

- (1) ゼミであなたはどんな貢献ができますか？（文章の読むこと・レジュメを作ること・発表すること…など、ゼミでの関わり方について）
- (2) あなたはどんな人物ですか。（何をしてきたか、どんな性格か、何が好き・嫌いか、就活用に使えるようなPR、などなど。ゼミに入ってから行う心理アセスメントに使います）

5. 学生へのメッセージ

ゼミは自分に合ったものだと思います。このゼミは、歴史系のゼミですので、①歴史が好きの方、②就職に向けて一歩踏み出したい人、その関連で、自分を知りたい人、この①②を両方満たすと思います。

個人的には、ゼミの2年半の間に利用する様々なアセスメントテストが無料で受けられるのと、ギャラップ・ストレンクスがこの値段で受けられるのは、お得だと思います（通常で受けると3700円ほどするので）。ゼミ生がもし希望するならグレードアップ版を割引価格で受けることもできますので申し出てください。一生使えるし、自分をさらによく知れます。

齊藤由里恵 ゼミナール (財政・社会保障)

1. 研究内容および計画

本ゼミナールでは、財政、社会保障の在り方を考察するとともに、財政制度、社会保障制度は経済活動に与える影響が大きいことから、財政や社会保障のみならず、社会や経済の現象を対象とし、経済学の視点から考察する力を養う。

そのため、論文発表会等への参加や、問題解決のためのプロジェクト、コンテスト等の参加も予定、検討している。

また、財政や社会保障に限らず、社会や経済に関する問題解決、ディベート等も予定している。さらに、外部講師を招いての講義等、より社会への関心を深めることもおこなう。

以上を通して、**①コミュニケーション能力、②論理的思考能力、③プレゼン能力**を向上させることを目的とする。自分の意見を他人に伝える能力、ディスカッションする能力を身につけることは、就職活動を有利に進めるためにも必要となる。

【演習Ⅰ】社会や経済の現象を考察することをはじめ、スタディスキルやプレゼンテーション技術等基礎的なスキルを磨く。個人・グループ単位での報告を中心に行う。

【演習Ⅱ】社会保障制度をはじめとし、政府の経済活動について、グループ単位で論文の執筆や、ディベートも行う。

【演習Ⅲ】卒業論文の執筆を行う。

2. 評価方法・基準

第1次選抜: エントリーシートの記載内容により判断する。

第2次選抜: Web面接: 2024年6月5日(水)~11日(火)で実施(予定)

*1次通過者は6月2日(日)午後18時までに発表。

6月3日(月)23時55分までに日程調整のメールをゼミEmailへ返信していただく。

6月4日(火)20時までに面接日時決定。(メールにて連絡)

3. 説明会・質問の対応について

ゼミ見学会&説明会: 2024年5月9日(木)4限・5限(場所: 齊藤由里恵 演習Ⅱの教室)

*途中退出、途中からの参加も可能とする。

また、質問等はメール、もしくは研究室への訪問も対応する。研究室への訪問の際には、メールにてアポイントを取ってくれると確実である。(yurie@mecl.chukyo-u.ac.jp)

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

本ゼミナールでは、メッセージにあるような意欲ある学生を求める。

そのため、以下3点は必ずエントリーシートへ記すこと。

1. 大学生生活で成し遂げたいこととその理由
2. 本ゼミナールにおいての目標と計画(どのような活動をしたいか等)、その理由
3. ゼミに求めること(どのようなゼミにしたいか)、自身のゼミへの貢献

5. 学生へのメッセージ

本ゼミナールでは、自主性とともに「友人づくり=ゼミの輪」も大切にします。一生の友人と同じ経験を分かち合うことは、かけがえのない財産である。講義は2,3年生合同で行うことも多く、ゼミに割く時間は多くなる。(3限+4限で実施)また、講義以外でも上級生ゼミとの交流、大学のイベント、他大学との交流、自主ゼミなども積極的に参加する意欲ある学生を求める。そのため、できること、何か面白そうな企画があればどんどん提案する意欲ある学生を望む。また、視察、ゼミ合宿(国内)、クルーズ船内(国内+海外)での研修等も予定している。

深堀ゼミナール (労働経済学)

1. 研究内容および計画

「大学生のアルバイトには103万円の壁による就業抑制効果が窺える。制度を見直して、より自由に稼げるようにすべきだ」——これは、過去のゼミ 3 年生の実証研究の結論です。深堀ゼミでは、誰かが言ったことの受け売りではなく、自分の頭でとことん考え抜くことを通じて、社会分析力や論理的な主張の構築力養成を目指します。講義のようにすぐに答えを教えられるわけではありません。自分で答えを論証するのがゼミ活動です。

教員の専門は労働経済学ですので、「働く」という行為にまつわること、あるいは現代人の人生にまつわる様々な課題について、統計データを使って実証的に分析し、自分なりの「解」を導出したい学生を募集します。扱うテーマは意外と広く、例えば、「若者の恋愛離れ」の経済メカニズム、理系女子を増やす政策、地方出身者と都市出身者との間の進学格差のような身近なテーマもこの中に含まれます。スケジュールは下記の通り。

2年生秋学期: 指定文献の輪読を中心に基礎固め

3年生: グループ研究を中心とした実践(研究成果の对外発表を目指す)⇒過去2年はISFJ日本政策学生会議で発表

4年生: 個人研究を中心とした実践(卒業論文執筆。テーマは経済学・経済に関する事柄であれば自由)

学生の関心次第ですが主に労働経済をテーマに学修や研究を行っていきます。教員は必要な解説・指導・サポートは行いますが、主役となるのは受講生自身です。正規の授業中には、プレゼンテーションを含む報告、ディスカッションを主に行ってもらいます。しかし報告のためには授業時間の外(夏休み含む)で個人あるいはグループで準備する必要があることを了解しておいてください。サブゼミも実施するかもしれません。

3年生になると、数人のグループで共同研究を行ってもらう予定です。研究成果は ISFJ 日本政策学生会議など外部で発表してもらうことを目標にします。ISFJに参加するならば1万5千字以上の論文執筆に加え、夏に関西もしくは東京で中間発表、12月に東京(2日間)で最終発表を行います。そのため懐に余裕があると良いでしょう。

学年を超えた繋がり・連携体制をつくりたいので、3・4年次には後輩ゼミ員へのサポートも期待します。

2. 評価方法・基準

エントリーシート(ES)の内容(成績含む)によって総合的に評価しますが、必要が生じれば面接も行って評価に含めます。ただし過去に面接を行ったことはありません。ESでは、記載情報そのものと論理的な文章が書けているか(論文・レポートの書き方を実践できているか)を見ます。ただし、自己PR欄は形式自由(文字以外も可)・体裁自由とします。

インターネット等からの剽窃・盗用や生成 AI の回答の丸写しは絶対に認めません(特にゼミ指定欄)。研究倫理やゼミの目的に反する態度だからです。引用するのであればレポートの引用ルールに則ってください。

1年次の成績が振るっていないならば、なおのこと人並み以上に ES で熱意を示して挽回してください。なお、2年生春学期に労働経済学 I を履修していなくても、減点はしません。未履修者の応募を歓迎します。

3. 説明会・質問の対応について

個別の質問には時間的・能力的に可能な限り応じますので、メールでの問い合わせをしてください。「入って見たら予想と実際が違った」と後悔しないためには、応募前に疑問点・不安点を残さないことが大切です。心理的に抵抗があるかもしれませんが、遠慮は要りません。但し必要最低限のマナーは守ってください。質問をお待ちしています。メールアドレスはMaNaBoの別添資料に掲載しています。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

(1)今学期(2年生の春学期)に履修している授業の科目名を全て列挙しなさい。

(2)映画「生きる」(監督:黒澤明、製作・配給:東宝、1952年)を鑑賞して以下の問いに答えなさい。必ず全編鑑賞すること。

①この映画のラストシーンで台詞として聞き取れる最後のものは、誰の何という台詞か答えなさい。

②この映画の内容(些細なことでもよい)と関連または対比させて現代社会(映画から72年後の世界)を捉え直すと、どのような社会課題を見出せますか。あなたが想到した現代の社会課題を1つ挙げて、「生きる」との関係性や社会状況の同異を説明するとともに、その課題の様相や対策の必要性を根拠を示しながら論じなさい。さらに、それを解決するための政策をあなたなりに考えて提言しなさい。

(注)フォントサイズは任意。また、映画の視聴は中京大学図書館でも可能。台詞が聞き取りにくいときは日本語字幕を表示させること。

5. 学生へのメッセージ

ゼミは希望者のみが参加するものです。ゼミメンバーには相応の熱意があって当然で、教員もそのつもりで指導・成績評価します。自分に合わないと思ったら無理して応募することはありません。特に、卒業論文を書く意欲がないならば応募は控えてください。

そもそもゼミは与えられるものではなく、自分たちでつくっていく授業でありコミュニティーです。教員ができるのはせいぜい骨格づくりまでです。活力あるゼミ、愛すべきゼミ、居心地の良いゼミになるかは受講生の皆さんに懸かっています。熱意と個性に溢れるメンバーは大歓迎ですが、前提条件として他者の個性を尊重し健全なコミュニティーづくりに貢献できる人でなければなりません。他には本好きなどの文化人的側面、知的探求型の趣味(〇〇マニア)、社会への問題意識、社会を知るための習慣、通説・社会通念への疑念もアピールポイントになります。ありきたりではない ES を期待します。「深堀ゼミに是非来てほしい」と思わせてください。

応募者には 2 年生春学期に統計学の履修を強く要望します。とはいっても未履修でも歓迎しますし、入ゼミ後はきちんとサポートもします。毎年、未履修の学生が何人も入ってきますが、今のところ何とかなっています。

塚本 ゼミナール (地域データ分析)

1. 研究内容および計画

本ゼミナールでは、**地域に関するデータを用いた統計分析**を行います。少子高齢化や人口減少、商業を含めた地域産業の衰退、公共交通の確保など、地域が抱える問題は山積しています。こうした問題に対して、経済学を含めた様々な知識と実際の統計データという根拠を基にしながら、論理的に解決策を示すことを目指します。こうした**統計的思考による課題解決能力は、社会に出てから一層求められる能力**です。

統計分析では**プログラミング言語「R」**を使用します。プログラミングと聞くと一見難しそうですが、大部分は慣れの問題です。ある程度慣れてくるとExcelでマウスをぼちぼちしながら統計分析の方が煩わしく感じるでしょう。ただし、コンピューターは忖度してくれないので、自分がやりたいことをコンピューターで実行するためにはどうすればよいのかを自ら考え、論理や記述に抜けがないプログラムコードを書く必要があります。よってプログラミングの学習をすることは論理的な思考力（と忍耐力）の向上にもつながります。

現段階では、下記の年次計画を構想しています。ただし、受講者の希望によって変更が生じる可能性もあります。

【演習Ⅰ】（2年次）：プログラミング言語「R」を用いて統計分析を行う手法を学びます。終盤には、各人の興味に基づく簡単なデータ分析もやってもらいます。また、**日本統計学会公式認定「統計検定2級」の取得**を目指します。

【演習Ⅱ】（3年次）：グループごとにテーマを定めて研究を行い、研究成果を他大学との共同研究報告会である**インターゼミで発表**を行うことも検討します（2023年度は、自治体と連携し、バスや市民アンケートなどの分析を実施）。

【演習Ⅲ】（4年次）：各人の興味に基づいて**卒業論文**の執筆を行います。データを用いた分析が含まれていればテーマに特段制限はありません。

※特段の理由がない限り、2年次秋学期に「計量経済学Ⅰ」、 「経済特殊講義Ⅲ」、3年次春学期には「計量経済学Ⅱ」を履修してもらいます。

2. 評価方法・基準

基本的に、**エントリーシートの記載内容で評価**をします（ただし、必要に応じて面接を行う場合があります）。特に、**本ゼミへの志望度合の高さ（熱意・やる気）**を重視します。評価は主に**現ゼミ生が実施**します（評価のため、エントリーシートは氏名やGPAなどを削除した上で現ゼミ生に提供します。このことに同意した上で応募してください）。

3. 説明会・質問の対応について

ゼミ説明会やゼミ見学会は実施しません。その代わりに、**MaNaBoで配布している資料には多数の写真を掲載し、ゼミの雰囲気**が一定程度わかるものとなっています。エントリーする前によく読んでおいてください。質問は、MaNaBoのメール機能、または電子メール (tsukamoto@mecl.chukyo-u.ac.jp) で対応します。対面での相談を希望する場合も事前にメールでアポイントを取ってください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

下記の項目の**全て**に答えてください（各回答の最初に番号を明記してください）。

- ① 「本ゼミでやりたい活動」または「本ゼミで自身はどのような行動をするつもりか」を書いてください（勉学に限る必要はない）。
- ② 2024年度春学期「統計学」を履修中かどうかを明記してください。「統計学」を履修中ではない人は、統計学を学習しようと思っていなかったのに本ゼミを志望した理由（言い訳）がもしあれば書いてください（任意）。
- ③ 選考にプラスになりそうと自身が思うことを好きなだけ書いてください。あまり書くことが思いつかない人は、自己分析を試みるのもよいでしょう。

5. 学生へのメッセージ

勉強のモチベーション維持のためにも、「**統計データを用いて様々な疑問・問題を解決したい!**」「**自分が住んでいる地域を良くしていきたい!**」「**いろいろな地域に行くことが好き!**」というような気持ちのある方の受講が期待されます。また、データサイエンティストを目指したい方も歓迎します。ゼミ中に実施する統計分析は基本的に計算自体はPCが行うので、数学力はあるに越したことはないですが特に必須ではありません。また、プログラミングについても経験の必要はありません（プログラミング未経験者を想定してゼミは実施します）のでその点は安心してください。

ゼミの活動を充実させるイベントやアイデアがあればどんどん企画してください。勉学においてもそれ以外においても、充実した楽しいゼミを創造してもらいたいと思います。

石田ゼミナール（消費者行動分析・アンケート調査法）

1. 研究内容および計画

私たちは、日常的に様々な**意思決定**を行っています。お昼に学食で何を食べるか、夏休みにどこに旅行するか、健康のために運動をするか等々・・・経済学では、消費者が合理的であることを前提に、消費者の意思決定を分析します。また、消費者が合理的な行動をしていない場合は、心理学の理論を取り入れた行動経済学によるアプローチが行われています。消費者がどのように意思決定を行っているかや、意思決定に影響を与える認知や態度がどのように決定されるかを知ることは、企業や自治体などにとっても**マーケティング戦略**や**政策**を検討する上で、非常に重要な示唆を与えてくれます。

本ゼミナールでは、私たち消費者が生活の様々な場面において、どのように意思決定を行っているかについて、**アンケート調査**により得たデータを元に、**統計学**や**計量経済学**の手法を用いて明らかにしていきます。アンケート調査は、消費者などの生の声を聞くことができる非常に強力なツールですが、調査票作成や調査方法が適切でないと、間違っただけの情報を拾ってしまったり、データ分析に使えなかったりと、案外難しいものです。（中には結果ありきで、そこに誘導するような悪質なアンケートも見かけます。）また、調査により得られたデータも、そのまま眺めているだけでは、有益な情報をほとんど与えてくれません。アンケートデータの情報を最大限活用するためには、様々なプロビットモデル（順序・多項、多変量）や、主成分分析など、アンケートデータの分析に適した分析手法を適用することが必要です。ゼミナールでは、アンケート調査の実施方法について学習し、実際に Google フォームを利用した調査を実施するとともに、そのデータの分析手法についても演習形式で学習します。

ゼミナールの進め方は、現在のところ以下のように考えていますが、皆さんと相談しながら調整します。2023年度の2年生は、3月に南あわじ市役所への**インタビュー調査**を兼ねて、1泊2日でゼミ合宿を行いました（希望者のみ）。

2年次：消費者行動に関するテキストを読み、その内容をプレゼン

3年次：卒業研究の進め方、論文の書き方についての学習

統計ソフトを使ったデータ分析の手法（演習形式）

アンケート調査法の学習、Google フォームを利用したアンケート調査の実施

4年次：関心のあるテーマについての論文を読み、まとめた内容をプレゼン

卒業論文を執筆（アンケート調査、消費者分析、データ分析のどれかに該当していればOK）

2. 評価方法・基準

エントリーシートの内容とGPAで評価します。特に**やる気**、**学びたいことのマッチング**を重視します。

3. 説明会・質問の対応について

MaNaBo の**メール機能**を利用して質問してください。**対面**での質問も用事などが入っていないければ対応します。気軽に研究室に立ち寄ってください。ただし、事前に**アポイント**を取っていただいた方が確実です。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

以下の項目について全て回答してください。

1 『消費者の意思決定』をテーマに、あなたが関心のあることを自由に書いてください。

2 ゼミナールで学びたいこと、やりたいこと（勉学以外も含みます）を書いてください。

3 卒業研究で取り組んでみたい内容をできるだけ具体的に書いてください。

5. 学生へのメッセージ

卒業論文では、自分で課題を見つけだしその課題に対し様々なアプローチから自分なりの答えを導き出す**問題解決能力**や、**データに基づいた思考**や**議論**ができる能力を身につけることを目指します。テーマは、教員からは与えず、各自で考えていただきます。そのため、**社会的課題**や**人間の行動**、**市場の動き**、**ビジネス**などに関心のない人は苦勞するかもしれません。私たちの身近な社会で起こっていることに対して高い**関心**を持ち、**経済学的なアプローチ**からの分析することに挑戦してみたいと考えている人の応募を歓迎します。

統計学や計量経済学を用いた分析を行いますが、これらを**道具**として**使いこなす**ことに重点を置いているため、数学が苦手な人でも問題ありません。ただし、**データに基づいて物事を考える**ことが嫌いな人には、合わないかもしれません。

ゼミのイベント等は、皆さんの**自主性**に委ねますが、勉学以外にも、仲間と話し合いをしながら何かを成し遂げるといことは、皆さんを大きく成長させてくれるはず（新3年生は、バーベキューなどの計画を立てています）。実際に就職活動でも学生時代に力を入れたことが聞かれます。是非楽しい企画を考えてください。一緒に思い出を作りましょう。

前田 ゼミナール (金融政策・マクロ経済学)

1. 研究内容および計画

【研究内容】

金融に関する政策は多岐にわたりますが、本ゼミナールでは中央銀行が行うマクロ金融政策、つまり、1年時必修のマクロ経済入門で扱ったような貨幣供給量(マネーサプライ)を変動させて行う金融政策を扱います。金融政策は株などの金融商品の価格に影響を与えるだけでなく、我々が生活する上で重要な財の価格や雇用、国全体の生産額にも影響を与えます。どうしてそのような効果があるのかを理論的に理解、研究することをこのゼミでの目的となります。

【計画】

- 2年次
金融政策の基本的な知識を身につけるため、テキストの輪読を行います。マクロ経済学の一分野なので、「マクロ経済学」の授業を同時に履修することを強く推奨します。
- 3年次
1年次に学んだマクロ経済モデルよりもさらに発展させたマクロ経済モデルを使って、金融政策はどのような効果があるのかを分析します。この分析の際に数学を使いますので、2年次終了時点で「経済数学 I」と「経済数学 II」を履修済みであることが望ましいです。また、「金融政策」という授業も特別な理由がない限り履修してください。この授業を前提にゼミナールも行なう予定しています。
- 4年次
3年次までに学んだ知識を基に、金融政策・マクロ経済学に関連した卒業論文を執筆してもらいます。

2. 評価方法・基準

成績とエントリーシートを総合的に評価します。

3. 説明会・質問の対応について

メールにて随時対応します。対面で質問をしたい場合は、オフィスアワーの時間以外はメールで予約してください。MaNaBoのメール、または d-maeda@mec1.chukyo-u.ac.jp にメールしてください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

1年次のマクロ経済入門で学習した IS-LM 分析を前提として以下の問に答えなさい。また、適宜図を使用しても構いません。

1. 金融政策を行うと利子率はどうなるか説明しなさい。
2. 金融政策を行うと国内総生産はどうなるか説明しなさい。ただし、ただ増加する減少するだけでなく、なぜそうなるのかも説明しなさい。

5. 学生へのメッセージ

ゼミナールは学生の皆さんが主体的に活動する場です。大枠は「1. 研究内容および計画」で書いたとおりに決まっているかもしれませんが、それ以外の細かいところや授業外の活動(懇親会など)は決まっていません。ぜひ積極的にやりたいことを提案してください。

斎藤 佑樹 ゼミナール (国際貿易、開発経済)

1. 研究内容および計画

国際貿易は経済学において非常に重要なトピックの1つであり、国際貿易は現在の世界経済とは切っても切れない関係にあります。世界には日本やアメリカ、ドイツなどのような先進国だけでなく、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ラテンアメリカなどの国々のような開発途上国が多く存在し、国際貿易は先進国間だけでなく先進国と開発途上国の間や開発途上国間でも盛んに行われています。貿易を行っている国の多くは世界貿易機関（WTO）に加盟していますが、WTOでは先進国と開発途上国の対立が問題になっています。このような状況において、国際貿易の現状や先進国、開発途上国それぞれが抱える問題について考えることは重要です。

そこでこのゼミでは、国際貿易または開発経済（開発途上国の経済問題を分析する経済学の一分野）について勉強していきます。具体的な内容は以下の通りです（ただし、ゼミ生の希望に応じて内容等を変更する場合があります。過去にもゼミ生にやることを決めてもらったこともあります）。

○2年次：国際貿易または開発経済に関するテキストまたはレポートを輪読し内容について議論することで、幅広く国際貿易または開発経済のトピックについて学びます。どのテキストやレポートを読むかなどはゼミ生の皆さんで話し合って決めてもらう予定です（いくつか候補を提示してその中から話し合いで選んでもらう予定、ゼミ生からの提案の中から良い案があれば採用する場合があります）。また、報告を通じてプレゼンテーションの能力の向上を目指します。

○3年次：2年次で興味を持った内容に関して調査し、報告を行ってもらいます。また、報告内容について議論を行い、内容についての理解を深めていきます。自分の報告や他の人の報告をもとに卒業論文のテーマを決め、卒業論文を作成するために必要な内容を学習します。

○4年次：卒業論文の作成とその内容の報告を行ってもらいます。

昨年度の実施例：（2年次）開発経済に関する本を2冊選び、開発途上国が抱える問題について学習した。
（3年次春）JETROのレポートについて報告し、報告内容についてディスカッションを行った（ディスカッションテーマについても報告者に決めてもらった）。

2. 評価方法・基準

基本的にはエントリーシートに基づいて評価します。頑張ってください。やる気と熱意が伝わるエントリーシートだと良いかなと思います。（たぶん面接は実施しません。）

3. 説明会・質問の対応について

MaNaBo にアップロードしてあるゼミ説明資料にて、ゼミの概要を簡単に説明します。質問は研究室（14号館4階414号室）またはメールにて対応します。気軽に質問にしてください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

以下の問いすべてに答えて下さい。

問1：好きなもの（人物、食べ物、動物、スポーツ、ゲーム、漫画、趣味などなんでもいい）を1つ選び、選んだものがなぜ好きなかを説明し、さらに選んだものの良さを説明してください。

問2：ゼミで行いたいこと（勉学以外でも良い、むしろ勉学以外が望ましい）を1つ挙げ、選んだ理由と選んだことに関して自分がどのように貢献することができるのかを実現可能な範囲で書いてください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミにおいて、勉学に励むことは重要です。しかしながら、勉学以外にも学生同士のコミュニケーションやレクリエーション・懇親会の企画・運営なども重要な事柄であり、そこから学ぶことも非常に多いと思います。主体的に物事に取り組み、積極的に学び行動することが大切です。ゼミでの活動がより良いものとなるためにも、他人のことやゼミ全体を思いやる気持ちを持って行動してください。

森本ゼミナール (マクロ経済学・経済成長論)

1. 研究内容および計画

【授業概要】

マクロ経済学は、経済全体の構造を数学的に理解しようとする学問です。中でも経済成長論は、時間の経過による長期的な経済の変化に関心を持ちます。資本蓄積や人口成長、企業の研究開発などの直接的な経済成長の要因を分析の対象とすることもあれば、AIの発展が所得や資産の格差に与える影響や国債残高の増大がどこまで許容されるのかといった、一見すると経済成長とは関係なさそうな事象も分析の対象とすることがあります。

本ゼミでは、輪読(事前学習とその報告・議論)を通じて、マクロ経済学及び経済成長論を学修します。また、修得した手法を用いて、各自の問題意識の下、卒業論文を執筆することを目標とします。経済学の分析では多くの場合、数学を用いるため、経済数学Ⅰ・Ⅱの内容を理解していることを前提とします。ただし、数学が苦手な学生がいる場合は経済数学の学習から始めるため、現時点で苦手であっても克服する強い意志があれば問題ありません。

【評価基準】

ゼミでは考えていることを他人と共有することが大事です。分からないことがあれば分からないと言い、間違っていると思えば間違っていると言ってください。それが例え、正しくなかったり的外れであったりしても大丈夫です。少くくなら輪読の内容と関係ない無駄話を挟んでも構いません。コミュニケーションが下手であっても自分の考えを共有しようとする学生、他人の考えを理解しようとする学生を評価します。ただし、共有すべき思考は輪読内容に関する事なので、事前準備(予習)は必要です。

【2年次秋学期までに履修すべき授業】

- ・マクロ経済学(秋学期 月曜3限・4限)
- ・経済数学Ⅰ(春学期 木曜2限)
- ・経済数学Ⅱ(秋学期 火曜2限)

【身に付く能力】

- ・論理的・抽象的な思考能力(数学という論理的・抽象的なツールを用いるため)
- ・コミュニケーション・プレゼンテーション能力(学生間で報告・議論するため)

} 大事

・経済学の知識

2. 評価方法・基準

エントリーシートと成績で評価します。

3. 説明会・質問の対応について

研究室(14号館3階344研究室)またはMaNaBoのメールにて質問を受け付けます。研究室の訪問に予約は不要ですが、不在を避けたい場合は事前にアポを取ってください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

関数 $f(x) = Ax^n$ の導関数が $f'(x) = nAx^{n-1}$ となることを証明しなさい。ここで、 A, n は定数であり、 n は正の整数である。その際、これ以外の微分公式を証明することなく用いてはならない。証明は書籍やインターネット上の情報を参考にしてもよいが、数式は数式として綺麗にタイプし、式変形の理由等、数式の行間は出来る限り詳しく説明しなさい。

5. 学生へのメッセージ

大学での能力向上は、学問に伴うものだけではありません。学生同士の交流や課外活動から得られる能力も多々あります。学問に打ち込むことも重要ですが、学問に傾倒し過ぎて、対人能力や柔軟性を欠いては意味がありません。かと言って、学問そっちのけではゼミが成立しませんし、知的能力も向上しません。しっかり学んで、しっかり遊べるようなゼミになればいいなと思っています。